葛議第　422　号

令和8年10月22　日

葛城市長　阿古　和彦　様

葛城市議会

議長　増田　順弘

（葛城市議会議員一同）

市民からの要望について

葛城市議会は、令和８年８月２２日は、ゆうあいステーションで、『葛城市公共施設のこれからについて』をテーマに、現状の公共施設の在り方について、公共施設の再編のイメージについて、次の世代に向けた公共施設の在り方について、２９日には、中央公民館で『ワクワクする葛城市のまちづくりについて』をテーマに、葛城市の良いところ、悪いところ、今後ワクワクする葛城市にするにはどうすれば良いのかを、市民の方々にご意見を聞く市民懇談会を開催いたしました。

理事者側におきましては、決算を終え令和９年度予算に取り掛かる時期となりますことから、少しでも次年度予算で対応されることを期待して、取り急ぎ市民からいただいた意見や要望についてお知らせいたします。

つきましては、市民懇談会でいただいた貴重な市民の皆様のお声を、できる限り反映していただきますよう、よろしくお願いいたします。

現在の状況について

葛城市は南阪奈道路のインターチェンジ擁する交通アクセスの優位性や近鉄南大阪線沿線の利便性を背景に、大阪都市圏のベッドタウンとしてこれまで着実に宅地開発が進み、人口規模が増加してきた背景がある。

しかしながら、その実態を直視するとき、我が国全体を覆う少子高齢化の波は本市においても例外なく深刻化しており、初期の住宅開発地を中心に住民の高齢化が急ピッチで進んでいる。今後は生産年齢人口の減少や社会保障費の増大に加え、既存住宅地における空き家問題や、高齢単身・夫婦世帯へのきめ細やかな生活支援、さらに自治会をはじめとする地縁組織の担い手不足など、地域コミュニティの持続可能性に関する懸念が現実のものとなりつつある。

一方で市内には二上山麓の豊かな自然環境をはじめ、日本相撲発祥の地としての歴史的ストーリー、當麻寺をはじめとする重層的な文化遺産、そして多くの来訪者でにぎわう「道の駅かつらぎ」など、他の自治体にはない極めて高いポテンシャルを有している。

しかし、これまでの歴史的・観光資源は「通過型」の域を出ないことが多く、市内に滞在し周遊してもらう仕組みや、インターチェンジ周辺の産業ポテンシャルを市内全域の経済活性化へと有機的に波及させる仕組みについては、なお発展途上にあると言わざるを得ない。

「第三次総合計画」の策定・推進に向けた極めて重要な過渡期にある。人口減少に伴う税収等の財政環境の厳しさが懸念される中、高度経済成長期以降に整備された多くの公共施設が一斉に更新期間を迎えており、(仮称)當麻複合施設の整備事業や、民間活力を導入した包括管理等への移行など限られたリソースを最適化するための構造改革が進められている。

今後は、単なるコストカットや「ハコモノの統廃合」にとどまらず、市民サービ

スの質的向上と持続可能な都市経営をいかに両立させるかが最大の焦点となっていく。

さらに、自治会や自主防災組織などの、加入率の低下や担い手の高齢化・不足が深刻化しており、従来の「行政が支え、地域がマンパワーで補う」というモデルが限界を迎えつつある。防災・防犯・福祉といったあらゆる地域課題において、セーフティネットの再構築は急務である、こうした構造的課題を乗り越えるためには、行政主導の縦割りから脱却し、市民、地域団体、民間企業がそれぞれの強みを持ち寄り、まちづくりに主体的に参画・共創する「新しい協働の仕組み」が必要不可欠となっている。

今般の市民懇談会で出た意見、要望を葛城市議会として精査した内容を次のとおり示します。

（良いところ）

〇環境がやはり葛城市はとても良い

・自然が豊かである

・山が近く、緑が多い

・緑と都市部のバランスがちょうど良い

・人が優しく住みやすい

・水がおいしい

〇子育て支援の充実

・学童保育所があるのはたいへんありがたい

・小学校の見守りの支援が充実している

・医療費の支援

〇治安が良い

〇広域アクセスが良い

・駅周辺が便利で人口も増えてきている

・交通の便が良い

・大阪に近い

〇イベント

・芝桜まつりは遠方からも来場され盛り上がっている

・道の駅の施設が良い

・花火大会

〇歴史・文化

・當麻寺

・相撲館

〇行政

・行政と市民との距離が近い

(悪いところ)

●子どもの遊び場が少ない

・雨の日に小さい子どもが遊べる屋内施設がない

●空き家が増えてきた

●大きな病院がない

●市の施設や学校などバリアフリー化やトイレの洋式化が遅れている

●新庄小学校の生徒が多すぎ、学校区によって生徒数に差がある

●インフラの老朽化(上水道)

●交通の便が悪い

・大字によって便利が良い所と悪い所があり、特に當麻地区は不便(スーパー等が少ない)

・南北道なし

・山手の方の交通の便が悪く車がないと不便である

・道路がよく混む、細い抜け道が危ない

●尺土駅前の開発を早く進めてほしい

●特産品の PR をどんどん発信してほしい

●企業数は多いが、地域活動への参加が少ない

●旧村は、どんどん高齢化が進み農業の従事者が少なくなり、荒地が多くなってきた

●桜の木がカミキリ虫の被害で昔ながらの桜が楽しめない

●JR 大和新庄駅にトイレがない

●市民活動があまり活発でない

●夜間の飲食店が少ない

●歴史のある町の活用方法

・有名な場所が、生かされていない

・葛城市の魅力の PR 不足

次に、先の状況を受け、ワクワクするにはどのようにすれば良いかという内容でご意見を伺いました。農業振興、地域資源の活用、高齢者の移送支援、市民活動の活性化等に対する支援、給食のアイディア、こどもの支援関係等々いろんなご意見をいただきました。

主な内容については、次のとおりです。

ワクワクする葛城市にするにはどのようにすれば良いのかについて
○新しい住民が増えているなかで集う機会を設ける場所が必要であり、そこには年齢を問わず参加できるイベントをどんどん行っていくことで葛城市に関心が生まれ、注目してくれると思う。 ○歴史的な建物の當麻寺など文化財が多い地域なのに、それがなかなか生かされていない現状があり、それが地域の財源になるかもしれないし、飛鳥、藤原京が世界遺産になったこともあり、歴史的建築物がある葛城市としても観光をもっと発展、PR させていただきたい。 ○もっと気を引くパートナーシップが必要ではないか、特に若者の気を引くパートナーシップが形成されれば葛城市への関心を持ってもらえるのではないか。 ○ 人に優しい福祉の町ということで、誰もが楽しめるイベントを行っていただいているが、他市の物産を集めて物産店をやったり、バルーンを飛ばすとかすれば華やかなイベントができるのではないか。 ○子どもと高齢者が一緒に過ごせる、子ども食堂の取組を応援してもらいたい。 ○社会教育センターの跡地について県と交渉していただき、葛城市が活気がでる活用の方法を検討してもらいたい。 ○農業振興ということで、新規就農や親元就農の支援や耕作放棄地を使って市民と行政とが集まって活用すれば食料自給率も上がるのではない

か。

○山麓地域にキャンプ場やグランピング施設を造り、災害時には仮設住宅を建設できるようにすればよいのではないか。

○古民家を活用した宿泊施設

○近鉄電車の当麻寺駅と當麻寺を結ぶ参道を「當麻寺おかげ参道」と名付けてプロジェクトを立ち上げて地域を活性化させていく。

○地域通貨(葛城ペイペイ)を導入すれば市民もリーズナブルに利用できて葛城市の活性化につながるのではないか。

○学校給食について意見箱を設置する。

○室内で遊べる施設

○市長、市議会、市民と共にSNS等で葛城市の魅力をアピールしていってほしい。

○尺土駅周辺に市役所を持ってくる、そのためには交通(道路アクセス)を検討する、例えば尺土池の利用と木戸線の早期完成

(重点項目)

○近隣の「飛鳥・藤原の宮都」が伝える古代国家誕生の歴史と隣接する葛城市は、日本最古の官道「竹内街道」や葛城山系を通じて深く結びついています。世界遺産を訪れる国内外の周遊客を呼び込み、當麻寺や相撲文化、二上山といった葛城市ならではの歴史遺産を発信していただきたい。

○社会教育センターの跡地については豊かな自然と歴史的資源に恵まれた金剛・葛城山麓の拠点として、長年にわたり人々の研修や学習、交流の場として親しまれてきました。本施設およびその周辺エリアの再編・利活用にあたっては、しっかりと県と交渉していただき、葛城市が活気がでる活用の方法を検討していただきたい。

○葛城市は、金剛・葛城山麓の豊かな自然と良好な水資源環境を有し、歴史的・文化的背景とともに発展してきた農業地域です。しかしながら、全国的な課題でもある農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境は厳しい局面を迎えています。これらに対応し、持続可能な農業基盤を構築するとともに、地域経済の活性化と農村環境の保全を図り食料自給率を上げていただきたい。

○市内の生活道路の確保は、単に「道を広げる」ことだけでなく、「弁之庄・木戸線などの集約型バイパス道路で車を効率的に処理し、生活領域に余計な車を入れない構造を作ること」がセットで不可欠であるので整備を進めていただきたい。

次に、『葛城市公共施設のこれからについて』をテーマに、現状の公共施設の在り方について、公共施設の再編のイメージについて、次の世代に向けた公共施設の在り方について、ご意見・ご提案をいただきました。

葛城市公共施設のこれからについて
○尺土駅周辺開発と二上神社口駅周辺開発の早期実施 ○踏切歩道の整備 ○自由に遊べる公園 ○トイレの洋式化(和式の公民館が多い) ○体育館、公民館などの避難所の環境整備(空調整備) ○都市計画の見直し ○大字によっては他市に近い場所もあるので近隣自治体との連携 ○子どもの体験、勉強、運動、市外から来られた方と交流ができる施設 ○公共施設＝避難所という考えを市側も市民側も自覚する必要がある。 ○市民が楽しめる施設であってほしい。 ○當麻第１保育所の再利用について ○各大字の公民館は住民の交流の場であり、もっともっと解放されて若い人からお年寄りまで楽しむ場所であってほしい。 ○各公共施設の老朽化が進んでいるのではないか、例えば水道施設について心配である。 ○最近、地球温暖化により気温が上昇傾向にあるが、公共施設がどこも午前８時３０分の開所でよいのか、特に夏場の運動施設など開所時間を柔軟にできないのか。 ○現状のニーズを把握してほしい、アクセスの良さ、バリアフリー化 ○公共施設を利用する時、高齢者は免許を返納しているので各施設に行く時のオンデマンド交通の導入や公共バスなどをもっと利用出来るよう

にしてほしい。

〇少子高齢化、人口の減少の社会課題を踏まえて公共施設の統合、一本化等で効率的な運営をして欲しい。

〇政策の進め方の透明化

（重点項目）

〇高齢化の進捗や自家用車への依存度の高まりに伴い、公共交通の利用者は減少傾向にあります。一方で、運転免許を返納した高齢者や学生など、日常の移動手段を確保することが難しくなってきており、公共バスやオンデマンド交通を効果的に組み合わせることなどで、誰もが安全・快適・自由に移動できる持続可能な地域公共交通ネットワークを構築していただきたい。

〇少子高齢化、人口減少の社会課題を踏まえて公共施設の統合、一本化等で効率的な運営をしていただきたい。

以上、今回開催しました市民懇談会の内容をお伝えいたしますので、令和９年度予算でできる限りご配慮をお願いいたします。